

①市長の本任期にかける抱負について

福井市長選挙へのご当選、おめでとうございます。

時代が大きく曲がり角を迎える中、福井市の学校教育環境やスポーツ施設の整備、また子供を抱える家庭・保護者への支援など、福井市でも多くの課題があると思いますが、市長におかれて、この任期中の目標・抱負を是非お聞かせくださいますようお願いいたします。

【回答】

- ・夢や希望を持って健やかに暮らすためには、将来を担う子どもたちに対する学校教育と家庭教育の充実や、社会教育や文化・スポーツ等の振興など、教育の果たすべき役割はこれまで以上に重要となっている。
- ・北陸新幹線福井開業という大きなチャンスを迎える。それに伴ってのまちづくりや、開業効果を最大限に引き出すための取り組みを戦略的に進めていかななくてはならないと考えている。さらに、本格的な人口減少・少子高齢化が進む中、SDGsの視点をふまえ、持続可能で活力ある地域づくりに取り組むことも必要と考えている。
- ・社会の国際化の進行もあり、学校における英語教育の必要性が一層高まっている。福井市では、令和2年度から小学 5・6 年生に教科としての英語が導入されるとともに、小学 3・4 年生では外国語活動が始まる。本県では、2年早めて平成 30 年から5、6年生の英語の授業時間を週1時間から2時間に増やして実施してきた。英語教育の分野も引き続きしっかりと取り組み、全国トップクラスの学力をさらに伸ばしていきたい。
- ・教育環境について、これまで、安心・安全の観点から、各校の耐震補強工事を優先して実施してきた。
- ・また、全国に先駆けて普通教室及び特別教室(音楽室)へのエアコン設置を進めてきた。
- ・施設の老朽化対策については、できるだけ各学校の実情や要望等を踏まえ、しっかりと取り組んでいきたい。
- ・学校施設の多くが昭和 40 年代に建設されていることから、施設の老朽化対策が課題となっている。現在、長寿命化のための大規模改修等を進めている。
- ・国の補助金の総額が充分でなく、難しい面もあるが、財源を確保し進めていく必要がある。工夫が必要と考えている。
- ・東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、スポーツに対する市民の関心は高まっている。スポーツを楽しむ人々を本市に呼び込む「スポーツツーリズム」の取組も不可欠であると考えている。
- ・スポーツ施設の整備についても、改修や用途変更を行いながら、施設の再整備が必要になって

くる。機能廃止を考えている施設においては、財政負担のない形であれば存続していくことも考えられるため、その方法を模索しているところである。

- ・福井の特徴として、小学校区ごとに公民館があることがあげられる。
- ・その公民館で、社会教育事業として、子どもと地域と家庭が結びつく事業を実施しているので、そういった面を伸ばしていきたい。
- ・その他、低所得の家族・保護者への支援としての事業も実施しているが、そちらについては、ご質問があればお答えする。また、現在、第2期子ども子育て計画策定している。制度について、ご理解いただけたらありがたい。

②学校規模適正化について

福井市で学校規模適正化に関する検討が進む中、その議論には当連合会の橋詰会長も参加させていただいておりますが、その我々市P連役員としても、現在の検討・取組み状況が非常に分かりにくいのが現状です。まして、一般の保護者からは全く今後の見通しが立たず、どこに居住するか、というライフプランにも関わる問題に、高い関心が寄せられています。

現在の検討状況と今後の見通しについてお聞かせください。

【回答】

- ・検討委員会を2年で5回開催。
- ・検討の対象・・・①複式になりそうな学校
②大規模すぎる学校
- ・アンケート調査・・・今後の人口増減等のシミュレーションをもとに、該当する地区にお住まいの方にアンケートに協力していただき、意見をもらっている。
- ・統廃合ありきの話はしていない。
- ・小規模校として残すなら、どのように残していくのが良いのかを検討している。

質問①・・・自分は河合地区に住んでいるが、中学校は今後どのようになってゆくのか？森田地区の抱える問題は、生徒の安全面において、緊急性が高いのではないかと。

回答→森田地区と他の地区との違いは、地区からすでに「こうして欲しい」という要望が出てきている。

要望書が出ているということは、地区の意見はまとまっていると考えられるので、今度の答申は、要望を加味した内容になると思う。地区として考えがまとまっていない他の地区と比べ、地区協議や検討を進めやすい。

森田地区は生徒数が多すぎて、危険な状況にあるので、喫緊の課題であると考えている。

質問②・・・大規模校の子どもをバス等に乗せて小規模校の学校に移動して授業をおこなうというのはどうか

回答→みなさんが希望するならそういう意見もありだとおもう。選択肢は、いくつもある。

統廃合だけが適正規模化ではない。多様な意見を求めている。

③中学校の部活動のあり方・部の設置について

部活動については、特に小規模校の保護者から、部活動選択が難しいという声が上がっています。

地域の学童で活発に行われている競技であるにも関わらず中学校の部活動で続けられないというところもありますし、また、地域のスポーツ施設を活用して新しい部活動として取り組めないかといった要望もあります。

正副顧問の複数担当になることで、教員の負担を減らしながら部活動を活発にできれば、と思いますが、副顧問だけでは部活動を認めない学校もあるとの報告もあり、部活動が一層収縮していく懸念があります。

中学校の部活動の現状と今後について、市のお考えをお聞かせください。

【回答】

- ・中学校の部活動は、教育課程に入っていないが、中学校学習指導要領に「学校教育の一環」として位置づけられている。
- ・部活動の1日の活動時間は、平日では2時間程度、学校の休業日(学期中の週末を含む)は3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行うとなっている。
- ・中学校の先生の超過勤務時間が月80時間以内とされている。しかし、中学校の先生は部活指導等もあるため、月100時間残業している人が何人かいるのが現状。
- ・中学校で超過勤務問題を根本的に解決するには、部活動を中学校から切り離し、地域のスポーツ、いわゆる社会教育に移行するということが、一つの大きな目標となる。最終的な目標だが。
- ・岐阜市では、地域のスポーツクラブで子どもたちが活動する取り組みが始まっている。福井で問題となるのは、子どもたちの移動の手段が無いこと。
- ・統廃合とからめて考えていきたい。喫緊の課題だと考えている。
- ・指導者が副顧問だけだからといって、部活動が出来ないということはない。

質問①・・・運動部の指導者は、地域に指導してくださる方がいて受け皿があるが、文化系の部活の充実性は？

回答→吹奏楽部は、部活のときは先生が2時間指導して、あとは地域の方が指導するのが2時間などの協力体制ができるといいのではと考えられるが、受け皿となる地域団体が少ないこと、生徒の移動の手段が無いことなどの課題がある。

④中学校の冬季間通学方法について

中学校の冬季、特に積雪時の通学については、従来より、徒歩あるいは保護者送迎でした。しかし、最近では、地域によってはコミュニティバスを事実上通学バスとして利用できるような運行体制が取られており、それが結果的に地域格差となっています。

校区の広い地域などで、コミュニティバスの通学のための有効活用を図っていただけたらありがた

いのですが、この点、市のお考えはいかがでしょうか。

【回答】

- ・地域コミュニティバスは、地域が運営している運行協議会が主体となり、運行しているものである。
- ・通学にも使いたいということであれば、地域と相談してもらえば、使い勝手のよい形に変わる可能性はある。時間やルートの問題があるので、よく話し合ってもらいたい。
- ・冬季に生徒を運行するバスを保護者がチャーターしているところもある。
- ・交通事故の観点でいえば、冬場自転車に乗るよりもバスに乗れるほうがいいが、利用者の数が一定数なければ難しい。
- ・それぞれの地区の要望を聞かせていただきながら、研究していきたいと思う。

⑤自転車での登下校時の安全について

中学校の自転車通学においては、郊外の学校の保護者から、ふらつきによる転倒事故や用水路などへの転落事故、また暗い夜道での不審者・犯罪などへの心配の声を聞きます。

市には、通学路の街路灯や、歩道などの整備をさらに進めていただきたいのですが、この点、今後さらに改善を図っていただけますでしょうか。

【回答】

- ・本市では「通学路安全プログラム」を策定し、隔年A地区・B地区を交互に見直している。危険箇所があれば、直す方向で取り組んでいる。
- ・街路灯について、規定としては、通学路であって300mの間全く灯りがないことが基準。賃借料や電気代は地区持ちであること、その他、農業への影響との兼ね合いで地区と折り合いがつけば、設置となる。
- ・要望はぜひ上げてほしい。
- ・自転車がふらついて危ないという点は、荷物が重いということがあると思う。荷台に括りつけてもらうことが基本だが、中学校は本当に荷物が重い。学校に置いておいていいものは、置いて帰るよう指導はしている。

- ・質問①・・・獣害としてのししなどが出没する地域もある

回答→獣害については、なかなか難しいが、行政が担っている道路灯や地域が担っている防犯灯の他、ご自宅の外灯を点けていただく取り組みへのご協力をお願いし、できるだけ真っ暗なエリアを無くす取り組みを進めている。

⑥プール開放問題について

プール開放問題については、この2年間、多くの意見交換をさせていただきまして、ありがとうございました。

プール開放をめぐる問題点については、各単位PTAの理解も進んで来ていますが、それでもや

はり色々な要望が寄せられています。

できれば以前のように市で監視員を立てて運営して欲しいとの要望や、日当などの予算措置への要望も根強くありますし、プールを開放するか開放を中止にするかという基準が全く実情に合っておらず、これを見直すべきだとの指摘なども多数上がっています。

より多くの子供たちが、より安全にプールを利用できるよう、来年度以降のプール開放の運用について、改善を図っていただきたいと考えていますが、市の方針はいかがでしょうか。

【回答】

- ・子どもたちがプール開放を望んでいるのであれば、市としても開放したいと思っている。そのため、関係者を集めて議論を進めてきている。
- ・市として、なるべく多くの民間の監視員を配置する方法を考えていきたいと思っている。
- ・監視員を複数名配置するとなると、50校すべての学校で同時にプールを開けることは難しい。そのため開放方法の案を提示させていただいている。
- ・市P連の代表者も参加されている検討委員会2月27日に開かれると聞いているので、そこで協議して欲しい。
- ・今年度の反省としては、中止になる日が多かったこと。そのため、中止の基準については、最高気温35℃以上のみを目安としてはどうかという話になっている。

まとめ<市P連>

- ・市P連として単位PTAの意見を集約し、第3回の委員会に臨むことで、より良い形で来年のプール開放に繋がれたらと思っている。